

令和5年度連携排砂等の実施結果に関する関係団体からの意見と対応について

【令和5年度連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業関係団体	<p>(1) 「より自然に近い形で排砂」、「ダムに（変質した）土砂を溜めないでほしい」、「土砂が堆積したときは排砂回数を増やすなどして、一回の排砂量を極力少なくしてほしい」ということを従来から要望している。</p> <p>令和5年度の排砂・通砂では2年分の土砂が排出されたが、一度に多くの土砂を流されることが海面漁業者には堪える。雨の降り方が変わったという事であれば、それに合わせて「実施基準（流量）」、「中止基準（流量）」及び期間の見直しを行うよう検討いただきたい。また、そのために改めて農業や内水面漁業関係者等との意見調整が必要であれば行うよう検討いただきたい。</p>	<p>(1) 令和5年度は、目標排砂量約35万m<sup>3</sup>に対して約32万m<sup>3</sup>の排砂を実施し、平均的な排砂量約37万m<sup>3</sup>とほぼ同量となりました。</p> <p>引き続き、関係機関や関係団体のご意見を伺いながら、雨の降り方の変化等を踏まえ、確実な連携排砂の実施に努めてまいります。</p>

【令和5年度連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業関係団体	<p>(2) 昨年夏のような猛暑が影響して、雨が降らないなど実施基準に満たずに排砂ができない年が今後もあると思われるが、その時に土砂の変質をいかに抑制するか、どのような対策が有効かといった研究を新たにすすめてほしい。</p> <p>(3) 連携排砂が行われてからこれまで、利害関係者が話し合い、調整が行われて今日に至っている。実施機関側はそのことを踏まえ、海面漁業者の意見や質問（「年数回に分けての排砂」や「流入量が少なくても排砂（自然流下の状態に）できるのではないか」等）に対し、「検討します」等とあいまいな回答ではなく、農業関係者、内水面漁業者はこう言っているから、また流域の治水対策上の理由等があるから、「できる」、「できない」というように説明をするべき。そのような説明をしないと、いつまでも各団体が好き勝手なことを言って、議論や意見調整が進まない。</p>	<p>(2) 連携排砂計画では、連携排砂が未実施となった場合は、土砂変質進行抑制策を実施することとしています。 土砂変質進行抑制策を実施した際には、その評価のため引き続きデータ等の蓄積を行ってまいります。</p> <p>(3) 連携排砂の実施にあたっては、関係団体との協議、調整を経て現在に至っています。 関係団体からの意見は様々ですので、引き続き丁寧に意見を伺い、協議・調整に努めてまいります。</p>

【令和5年度連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
海面漁業関係団体	<p>(4) 1月1日の能登半島地震において、当初3mの津波警報が発令された。3mの津波が発生した場合、黒部川堤防や橋は大丈夫なのかといった心配する声が寄せられた。排砂時の対応とも関連するので、黒部川流域の治水対策等について、次回の会合等で説明いただければありがたい。</p> <p>(5) 藻場、漁場保全策については、引き続き、海面漁業者、県水産研究所と連携した対策の実施を検討いただきたい。</p>	<p>(4) 能登半島地震において、黒部川においては、堤防等の河川管理施設の異常や被災等は確認されませんでした。          なお、地震発生直後に、生地潮位観測所（黒部市）において、約40～50cmの潮位変動が観測されましたが、河川への津波の遡上は殆ど確認されていません。          また、津波警報での3mの津波高に比べて、黒部川の現況堤防高の方が高いことを確認しております。          いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。</p> <p>(5) 今後も引き続き富山県水産研究所と連携して、下新川海岸での藻場保全の試験施工を実施してまいります。</p>

【令和5年度連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業 関係団体	<p>(1) 細砂の堆積による河床上昇が河口から広がっており、特に河口の細砂の堆積は国土交通省の資料からも明らかであり、この除去を対応いただきたい。また、河口に溜まった砂は鮭、鱒、鮎等の内水面漁業にとって重要な魚種の遡上を妨げており、河川に溜まった砂は石を覆い隠し、魚の餌となる珪藻がはえる餌場や産卵場を減少させており、生息調査や河川踏査では排砂後の肥満度の低下や過重産卵が目撃されている。細砂堆積による湧水箇所<sup>しりびれ</sup>の減少も見られるため改修、整備等行いより魚にやさしい川づくりをお願いしたい。</p> <p>先だっては昨年も遡上サクラマスにスレによる尻鰭<sup>しりびれ</sup>の出血があったため、河口を1つにし遡上に問題のない水量になる様、整備をいただきたい。</p>	<p>(1) 黒部川は連携排砂のみならず、出水により土砂の堆積や侵食を繰り返しています。</p> <p>土砂の変動により治水や河川環境への問題がある場合は河道掘削等の対策を行っております。また、連携排砂等による土砂動態について注視するとともに、湧水箇所や産卵場所の保全に努め、瀬・淵が維持されるよう今後も必要な対策を行ってまいります。</p> <p>引き続き、『魚にやさしい川づくり検討委員会』等の場を通じて、漁業者や学識経験者の意見を聴きながら整備に努めてまいります。</p>

【令和5年度連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業 関係団体	<p>(2) 流入土砂が出し平ダムや宇奈月ダム、愛本えん堤上流でヘドロ化して堆積しているのが確認出来ます。連携排砂での排出をされているかとは思いますが、浚渫等下流域に流さず撤去する方法も検討、実施していただきたい。</p>	<p>(2) ダム貯水池内の細粒土砂を含む堆積土砂については、「令和5年黒部川の土砂動態について」に示したとおり、連携排砂及び通砂により上流生産量が河口まで到達し、概ねバランスが取れていたと考えております。</p> <p>引き続き、連携排砂・通砂を基本として実施してまいります。</p> <p>なお、愛本堰堤上流の土砂堆積につきましては、治水や河川環境への影響がある場合は河道掘削等の対策を行ってまいります。</p>

【令和5年度連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業 関係団体	<p>(3) 水生生物の調査日程はなるべく早く、確実に組合に連絡いただきたい。また、排砂に関する調査では、排砂量、時間、濁度、水質が水生生物の生残、成長等にどの様に影響するかも調査し、治水と生き物の両方にとって良い連携排砂の可能性を模索していただきたい。</p>	<p>(3) 河川における各種調査を実施する際は、速やかに関係各所に連絡し対応いたします。</p> <p>実施機関では、今までも排砂による環境影響調査について、内水面漁協のご協力を頂き、その調査・分析に努めてきたところであります。</p> <p>引き続き、学識経験者等のご意見を踏まえつつ、排砂による環境影響調査に努めてまいります。</p>

【令和5年度連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
内水面漁業 関係団体	<p>(4) 黒部川ダム排砂評価委員会メンバーの方々と協議の場を設定いただきたい。実際に黒部川をご案内し、連携排砂実施前と今の違いを説明し現状からどの様に黒部川のあるべき姿を目指すか協議させていただきたい。</p>	<p>(4) 黒部川ダム排砂評価委員会は、漁業や水産資源などそれぞれ専門的な立場から排砂による影響について評価をいただく場であり、評価委員の方々には、これまでも黒部川や連携排砂を視察いただいております。</p> <p>河川環境等に配慮した取組については『魚にやさしい川づくり検討委員会』等の場を通じて、ご意見頂き、その取組については黒部川ダム排砂評価委員会でも紹介させていただいております。</p> <p>引き続き『魚にやさしい川づくり検討委員会』等の場を通じてご意見・ご協力をお願いいたします。</p>

【令和5年度連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
農業 関係団体	<p>(1) 近年農業は担い手農家等に農地が集約され、大規模経営となっております。</p> <p>そのため、担い手農家等は、水の必要な時期が以前と比べ長期間必要となっており、連携排砂による断水期間と農作業の関係に強く不安を抱いております。</p> <p>こうした農業情勢の変化を充分考慮され、連携排砂の時期を再検討していただくとともに、情報提供の更なる周知に努めて頂きたい。</p> <p>また、農作業の時期的な影響を最小限にするため、連携排砂及び通砂による合口用水の取水停止時間が長期化しないよう検討願います。</p>	<p>(1) 現在の排砂・通砂の実施時期や方法等は、これまでも関係機関や関係団体からご意見をいただき、排砂評価委員会および土砂管理協議会等で評価・議論され、築かれてきました。</p> <p>今後とも関係団体と連携を密にしてご理解・ご協力を得ながら、連携排砂を実施してまいります。</p> <p>また、令和5年度も「連携排砂の体制・実施状況の情報提供の改善」として、X(旧Twitter)による情報発信や「連携排砂予報」をホームページやXで提供する取組を実施しました。</p> <p>今後も連携排砂等を実施するにあたっては、地域の皆さまにご理解とご協力が得られるよう、分かりやすい広報、情報提供に努めてまいります。</p> <p>合口用水については、連携排砂・通砂実施中だけでなく、出水初期から連携排砂および出水後の安全確認が終了するまでの間、取水を停止しており、降雨や出水規模による影響を受けます。</p> <p>このような状況を踏まえ、関係各所と意見交換等を行い、短縮に向けた実現可能な改善策がないか引き続き検討してまいります。</p>



【令和5年度連携排砂等の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応（実施機関の見解）
<p>農業 関係団体</p>	<p>(2) 毎年実施される連携排砂の影響により、愛本堰堤上流に大量の砂が堆積している。 これにより、合口用水沈砂池に大量の砂が流入することとなったことから、堰堤上流の砂の除去を至急実施してもらいたい。また、堰堤上流に砂が堆積しないような対策の実施も加えてお願いします。</p>	<p>(2) 黒部川は連携排砂のみならず、出水によっても土砂の移動を繰り返しています。 愛本堰堤上流に堆積した土砂の対応については、土砂堆積状況を確認し、堰堤管理者を含む関係各所とも情報交換し、対応について議論してまいります。 愛本堰堤上流に土砂が堆積しない対策については技術的に難しいところがありますが、排砂後の措置を適切に実施することが基本と考えております。 また、排砂時や出水時等において、愛本堰堤に流入する土砂をなるべく通過させることが望ましいと考えております。</p>